

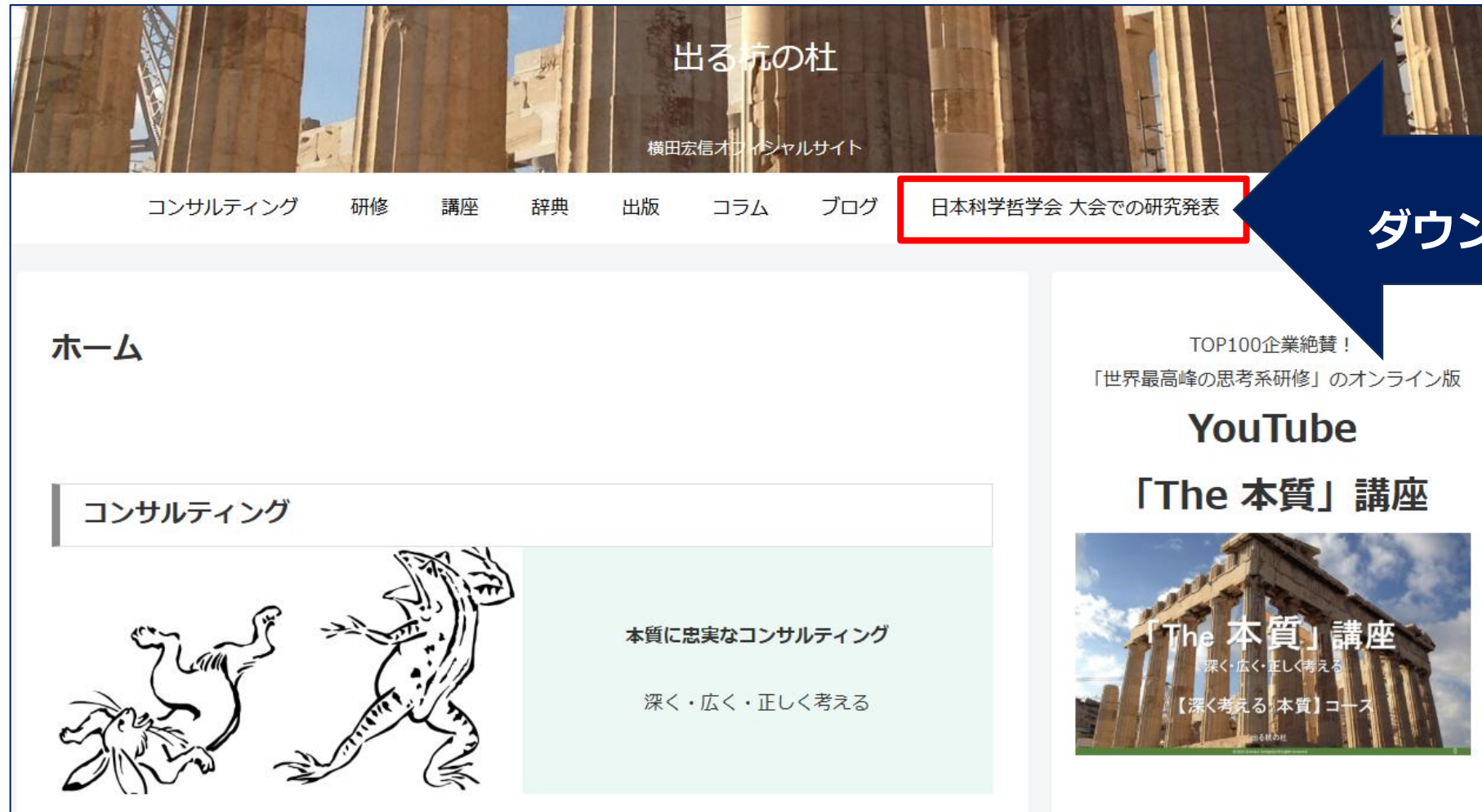
本質とは何か？ どこにあるのか？

出る杭の杜
代表 横田宏信

2025年11月30日
13:15 – 13:45
於：中央大学 B会場(F408)

本資料は下記サイトからダウンロードできます。

「出る杭の杜」サイト：
<https://www.derukui.company/>



ここから
ダウンロードページへ

物心ついた頃から一人で考えまくってたどり着いた
「**本質とは何か**」とそれを起点とするビジネス論
にこだわって生きてきました。
(要するに「**本質オタク**」です)

【略歴】

- 1982年 慶応義塾大学 経済学部 卒業
- ソニー、 PwC、 E&Y（当時のCGE&Y） 、 IBM等を経て2004年に出る杭の杜を創設、現在まで代表を務める。
- 2014年より、ライフワークとして「**本質系イノベーション研修（通称：出る杭研修）**」を実施。
100社以上のTOP企業から「**世界最高峰の思考系研修**」と絶賛される。
（トヨタ、ホンダ、パナソニック、オリンパス、三菱電機、三菱自動車、三菱地所、三菱重工、ファミマ 等）
- 2024年より、**YouTubeにて「The 本質講座」**を配信。
現在（2025年11月30日）**チャンネル登録者5,000人超。**
- 2021年より、日本科学哲学学会会員

本質ベースの研修

本質ベースの講座

【執筆】

<書籍>

- | | |
|---|---|
| ● 「ソニーをダメにした『普通』という病」（2008年） | Amazon Kindleで総合1位
★ 10万部ベストセラー ★ |
| ● 「イノベーター出る杭の本質思考 —GAFAを超える発想法—」（2019年） | Amazon「経営科学」1位 |
| ● 「イノベーションの起こし方」（2020年） | Amazon「経営科学」1位 |

本質ベースの本

<コラム>

- | | |
|---------------|------------------------------|
| ● 日経ものづくり | 「『出る杭』を育てる時代」等の連載 |
| ● 日経×TECH | 「出る杭コンサルの眼」等の連載 |
| ● ダイヤモンドオンライン | 「御社の『商品価値』はなぜちっともお客に響かないのか？」 |

本質ベースのコラム

この本質論はTOP100企業から絶賛されてきました。

TOYOTA

 **HONDA**



 **DAIHATSU**



DENSO
Crafting the Core

AISIN



KOBELCO

TECHNOPRO

Panasonic

Pioneer



NEC

OLYMPUS

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

 **MORINAGA**

 **House**

kewpie 

TOTO

LIXIL
Link to Good Living



AGC

FamilyMart

世の中は「本質とは何か」がわかっていない。
最も一般的な理解は「ある事物をそれたらしめるもの」である。

SNS Xでのアンケート調査結果



答えがバラバラであるという意味で
世の中は「本質とは何か」がわかっている
とは言えない。

答えはバラバラ

<日米合算>

- ・ ある事物の中核をなすもの : 38.5%
- ・ ある事物をそれたらしめるもの : 41.8%
- ・ ある事物すべてに共通する特徴 : 19.7%

最も一般的な答えは
「ある事物をそれたらしめるもの」

その中で、世の中同様、哲学界においても最も一般的な理解は「ある事物をそれたらしめるもの」のよう。
だが、そもそも「ある事物をそれたらしめるもの」とは一体何なのか？

「ある事物をそれたらしめるもの」

とは一体何なのか？

それがわからなければ
「本質とは何か」がわかったことにはなりそうもない。

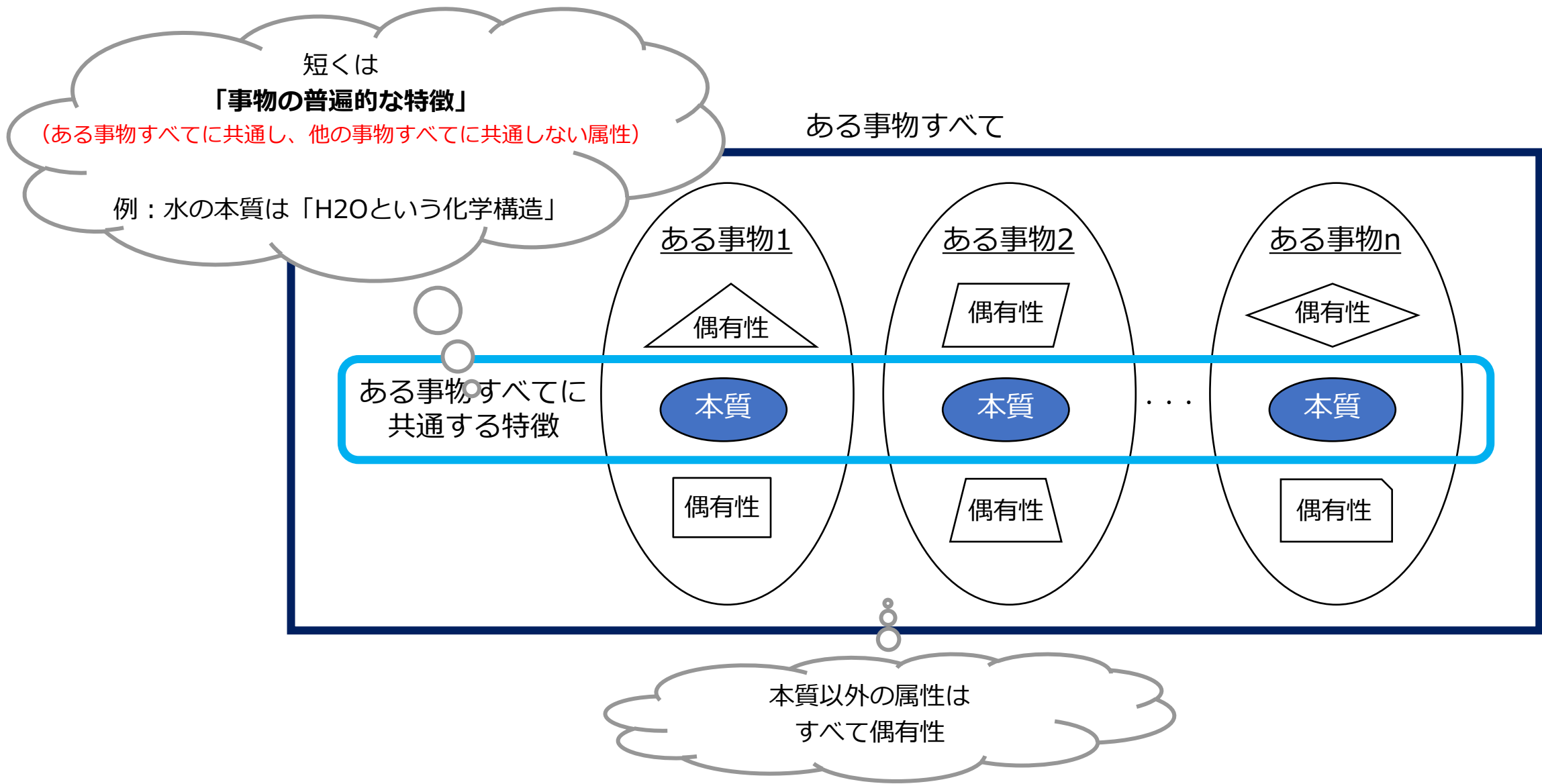
AI (Google Gemini) の問答

「ある事物をそれたらしめるもの」は現在の哲学において「本質とは何か」についての最も一般的な理解と考えていいですか？



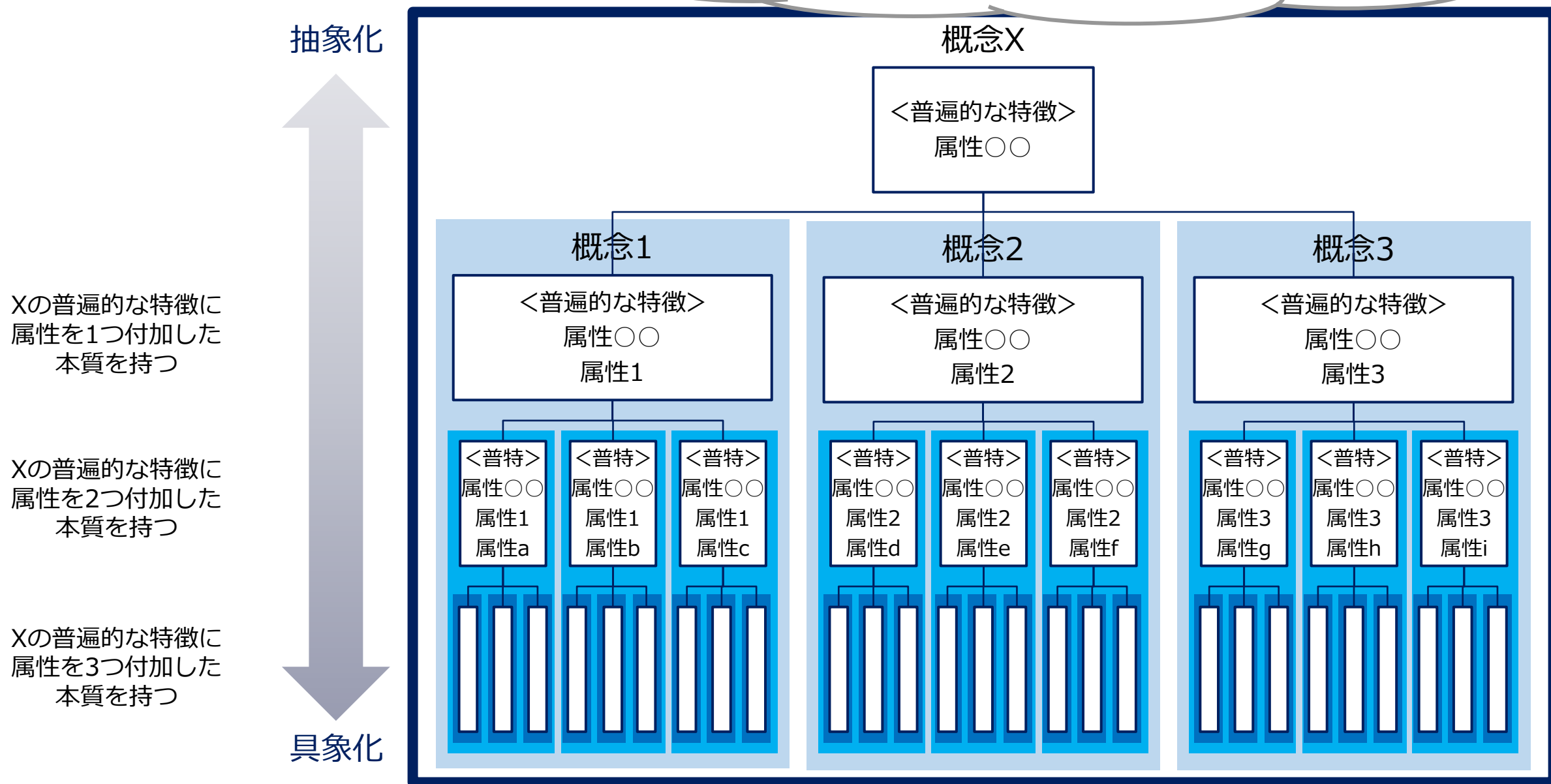
はい、「ある事物をそれたらしめるもの」という表現は、現在の哲学（特に形而上学や存在論）において、「本質 (essence)」を説明する際の最も一般的で、かつ直感的に理解しやすい基本定義と考えていただいて構いません。

「ある事物をそれたらしめるもの」になり得るものは、「ある事物すべてに共通する特徴」しかない。
短くは「事物の普遍的な特徴」である。

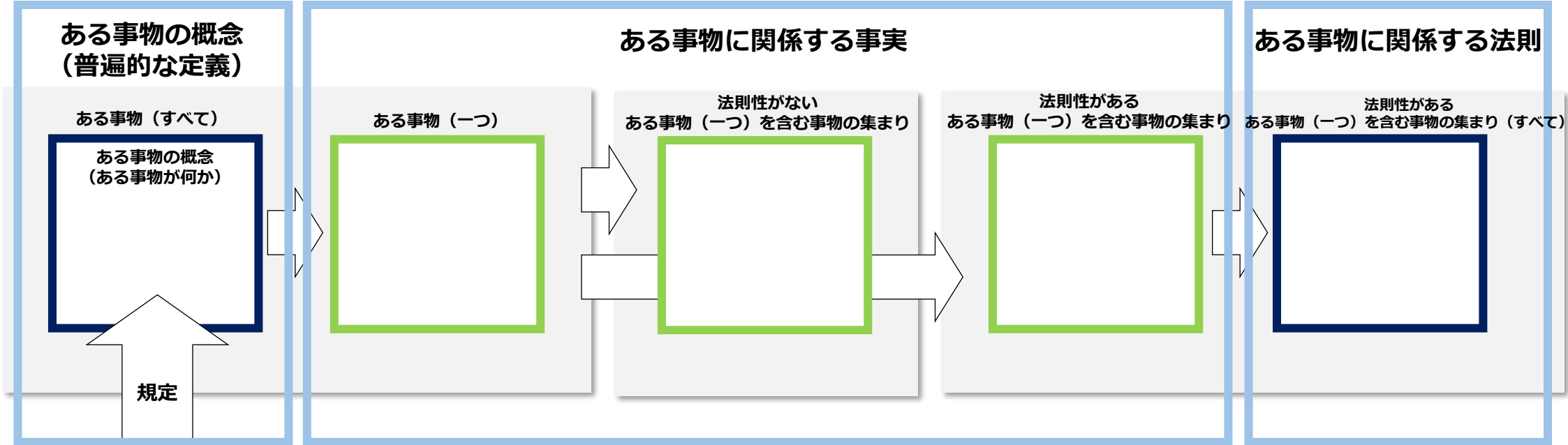


「事物の普遍的な特徴」は概念を規定する。
つまり、ある事物をそれたらしめる。

例：水という概念は
『「H2Oという化学構造」という普遍的な特徴を持つ事物』



「事物の普遍的な特徴」は、それが規定する概念を通じてあらゆる認識を普遍的に規定する。
よって、「事物の普遍的な特徴」は「現実の正しい見方の根本」である。



「事物の普遍的な特徴」は
「現実の正しい見方の根本」である。



凡例

「現実の正しい見方の根本」は、「本質とは何か」について世の中が持つ代表的なイメージに符号する。
ならば、「本質」は「事物の普遍的な特徴」の呼称に相応しい。

辞書において単語ごとに冒頭に記述される内容は
その単語について世の中が持つ代表的なイメージを映すと考えられる。

キーワードは
「根本的」

この世に
「現実の正しい見方の根本」
ほど根本的なものは他にない。



1. 物事の根本的な性質・要素。そのものの、本来の姿。

2. 哲学で、存在するものの基底・本性をなすもの。

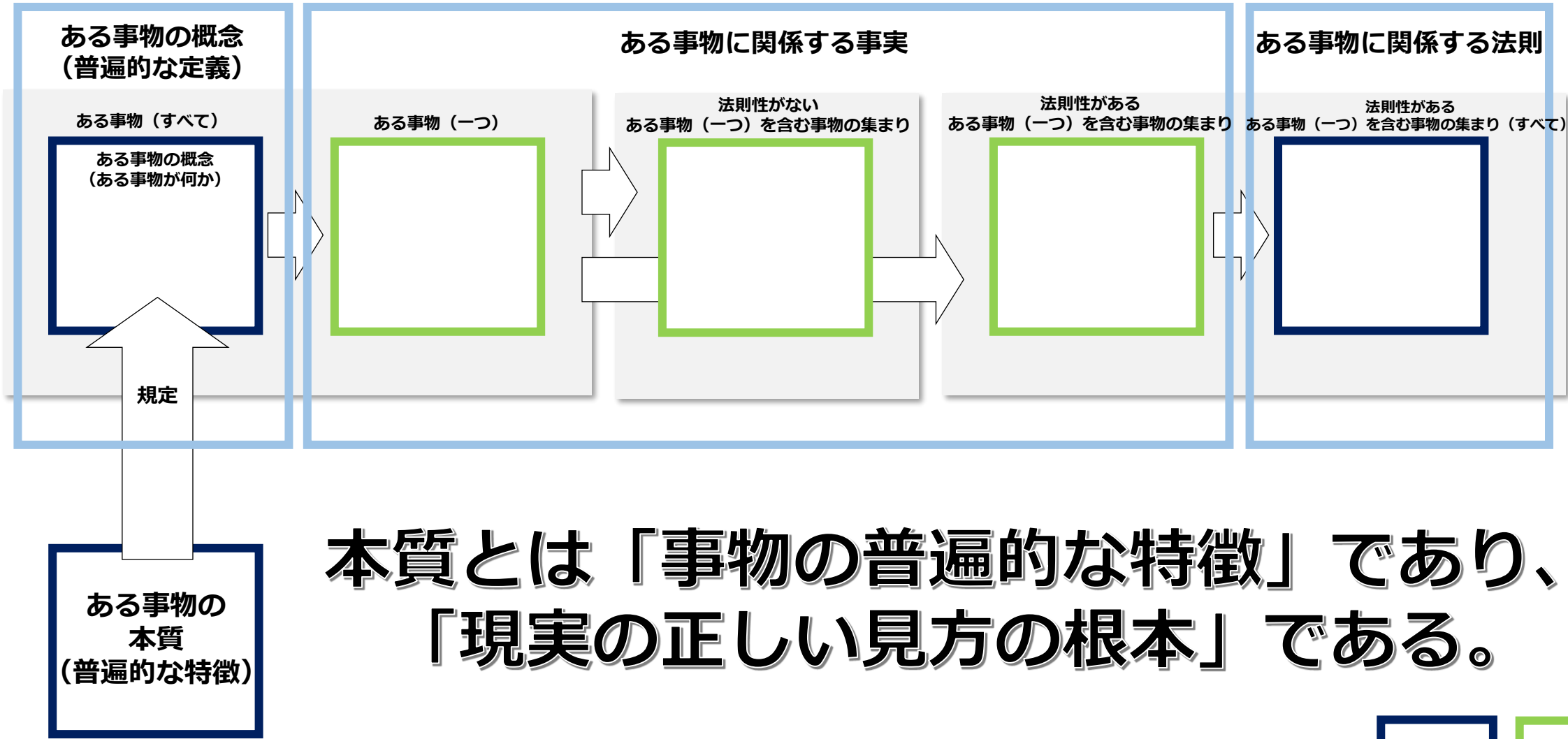
㊦ 偶有性に対立し、事物に内属する不変の性質。

㊧ 実存に対立し、そのもののなんであるかを規定し、その本性を構成するもの。

3. 論理学で、思惟の対象を定義する諸限定。類・種のごとき普遍をさす。

デジタル大辞泉

つまり、本質とは「事物の普遍的な特徴」の呼称であり、これが「本質とは何か」の正解と考えられる。
そして、本質とは「正しい現実の見方の根本」である。



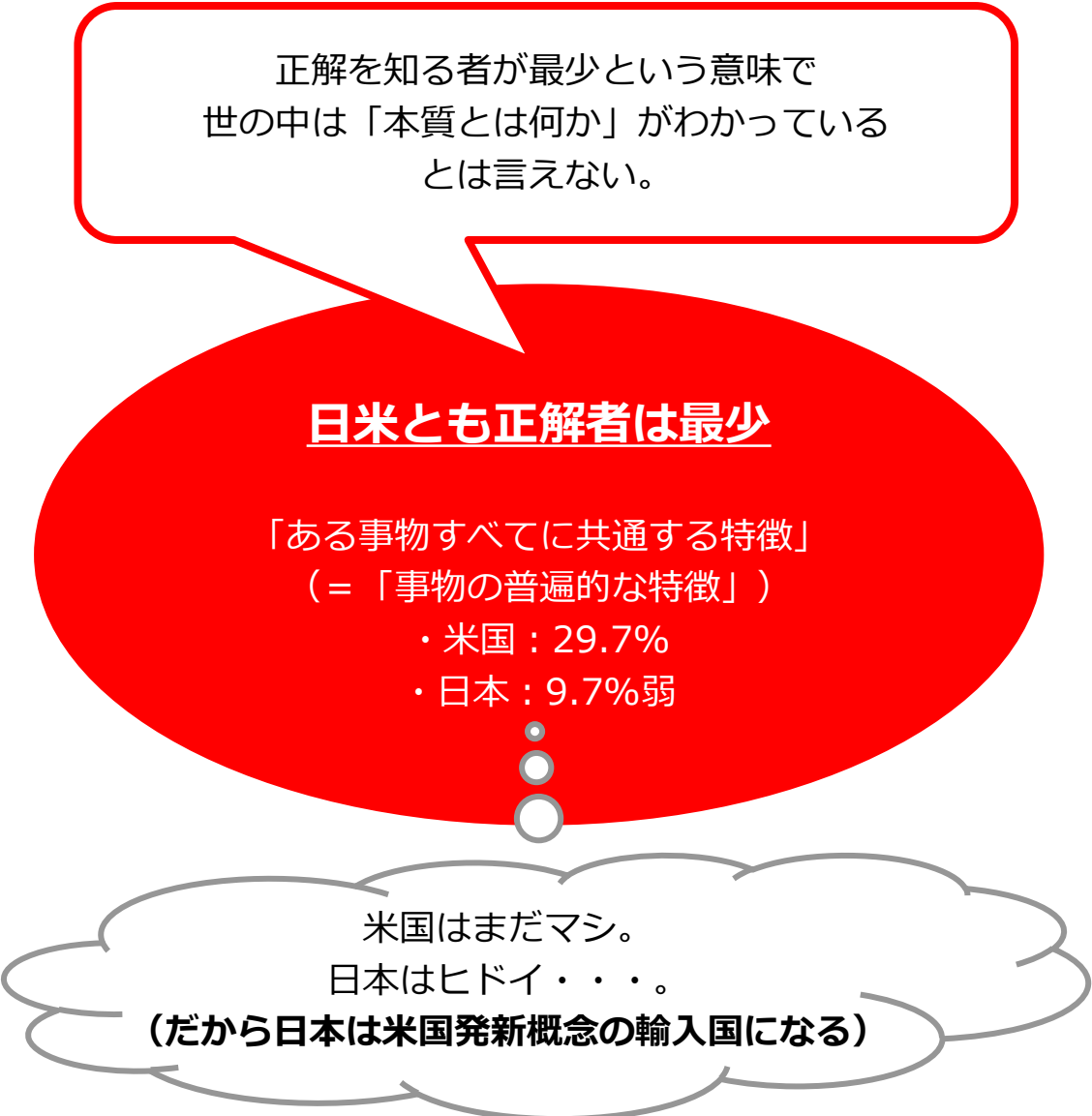
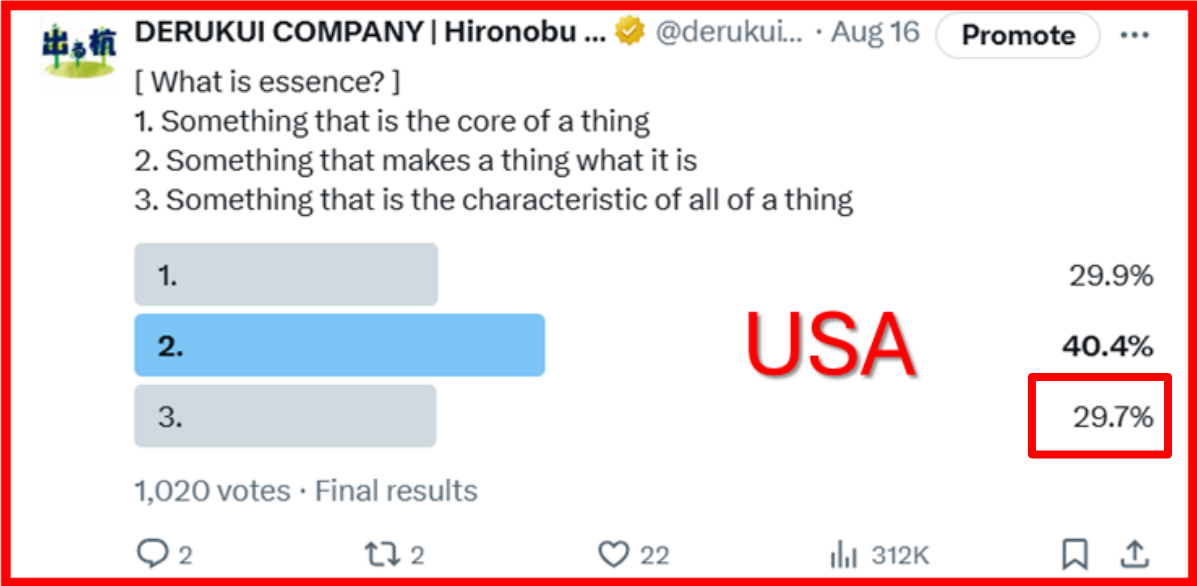
**本質とは「事物の普遍的な特徴」であり、
「現実の正しい見方の根本」である。**



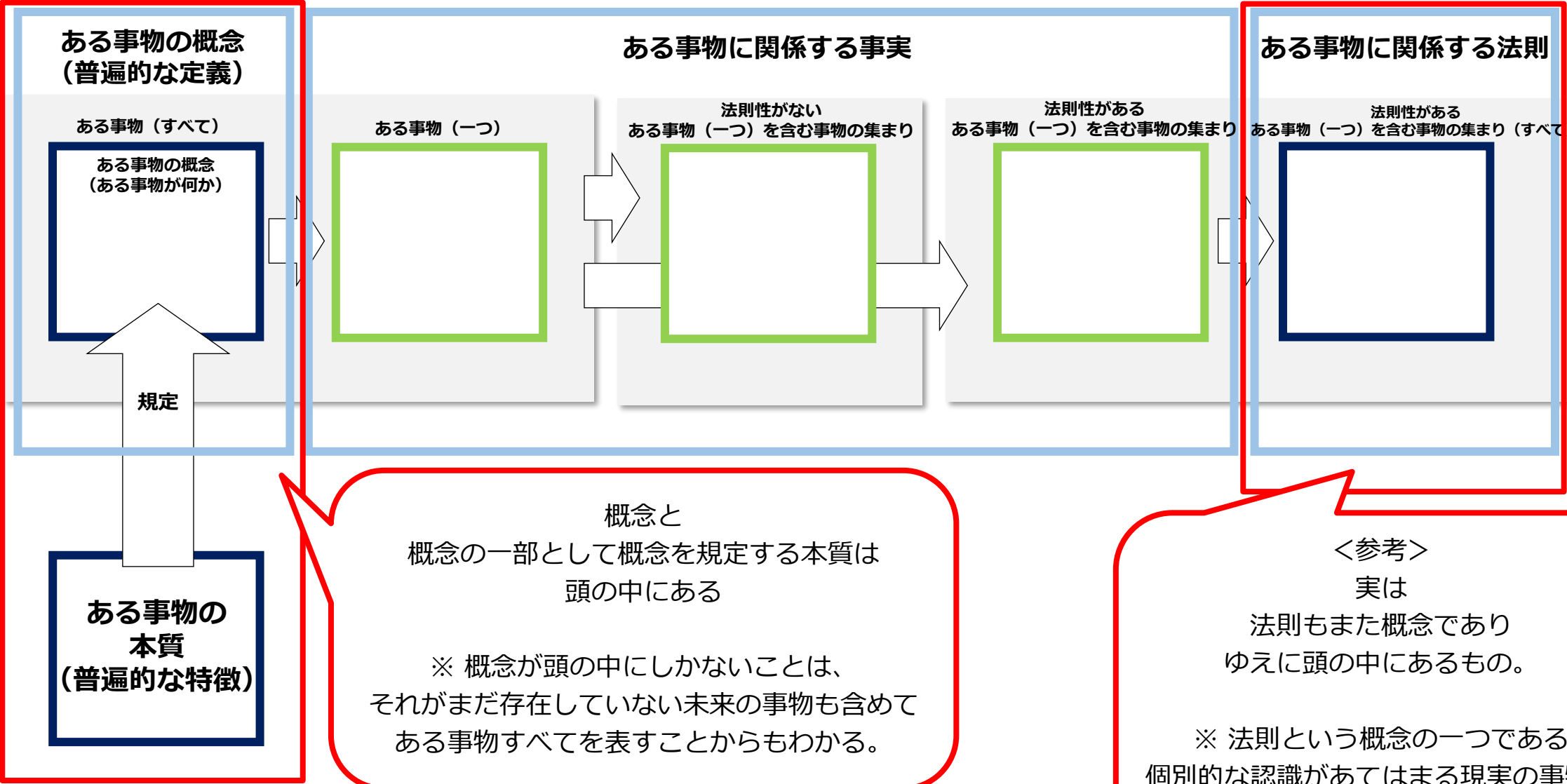
凡例

改めて、世の中は「本質とは何か？」がわかっていない。

SNS Xでのアンケート調査結果



また、概念は頭の中にある。
よって、概念の一部として概念を規定する本質もまた頭の中にあると考えていい。



世の中は「本質とは何か」がわかっていないだけではない。
世の中は「本質はどこにあるか」もわかっていない。

SNS Xでのアンケート調査結果



答えがバラバラであるという意味で
世の中は「本質はどこにあるか」がわかっている
とは言えない。

答えはバラバラ

<日米合算>

- ・ 本質を持つ事物の中 : 38.1%
- ・ 本質を知る人の頭の中 : 32.0%
- ・ 他 : 29.9%

最も一般的な答えは
「本質を持つ事物の中」
(つまり頭の外の現実の事物の中)

さて、自然科学においては、本質の探究が極めて重視されてきた。
それは今でも変わらない。

AI（Google Gemini）での問答



科学を自然科学と社会科学に二大別するとして、これまで自然科学において事物の普遍的な特徴を本質と呼んできましたか？



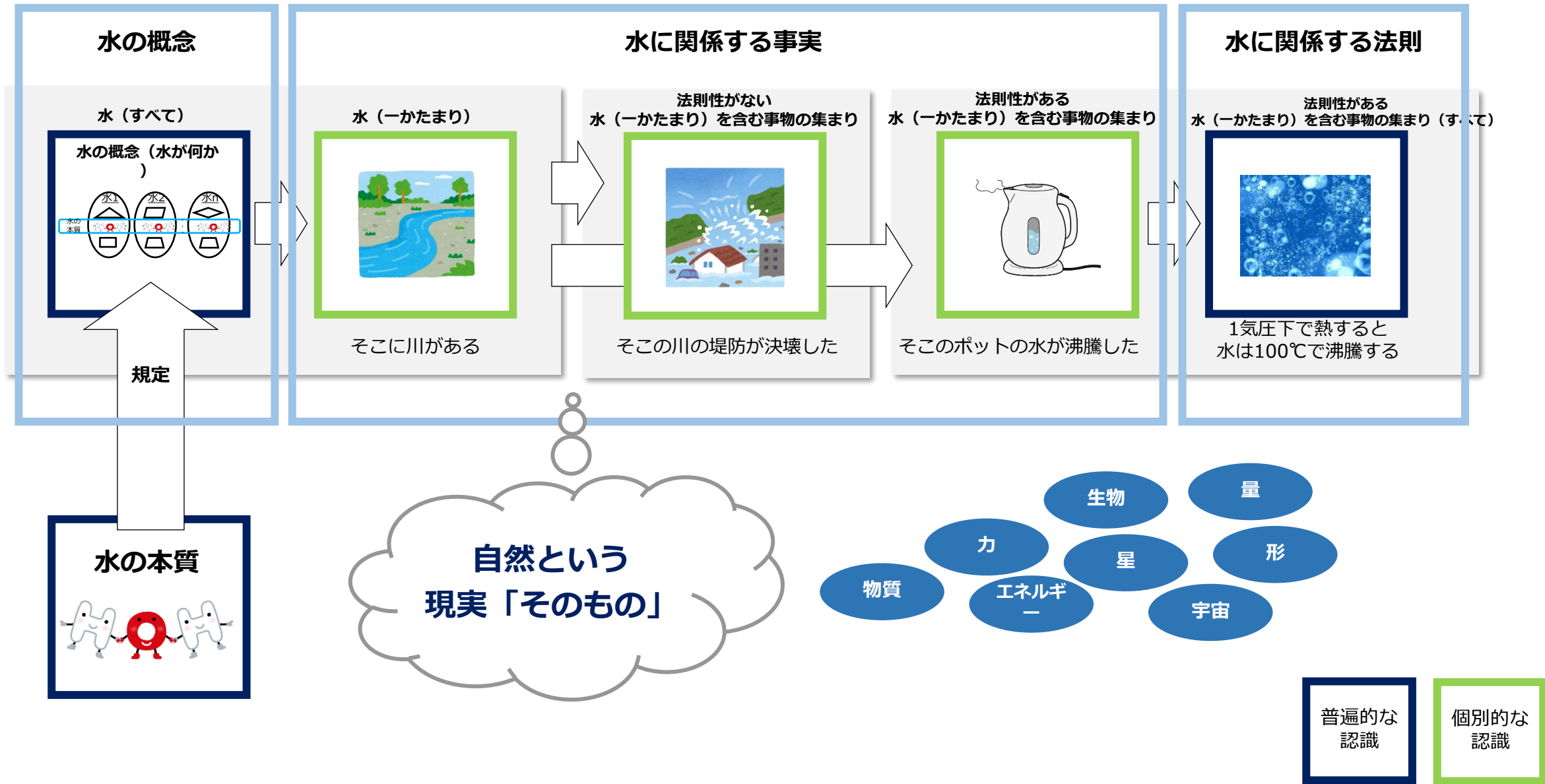
はい、これまで**自然科学**において、事物の****普遍的な特徴（universal characteristics）や不変の法則性（invariant laws）を本質（essence）****と見なす認識は、**非常に一般的で、探求の核**となってきました。

現代科学における認識の洗練

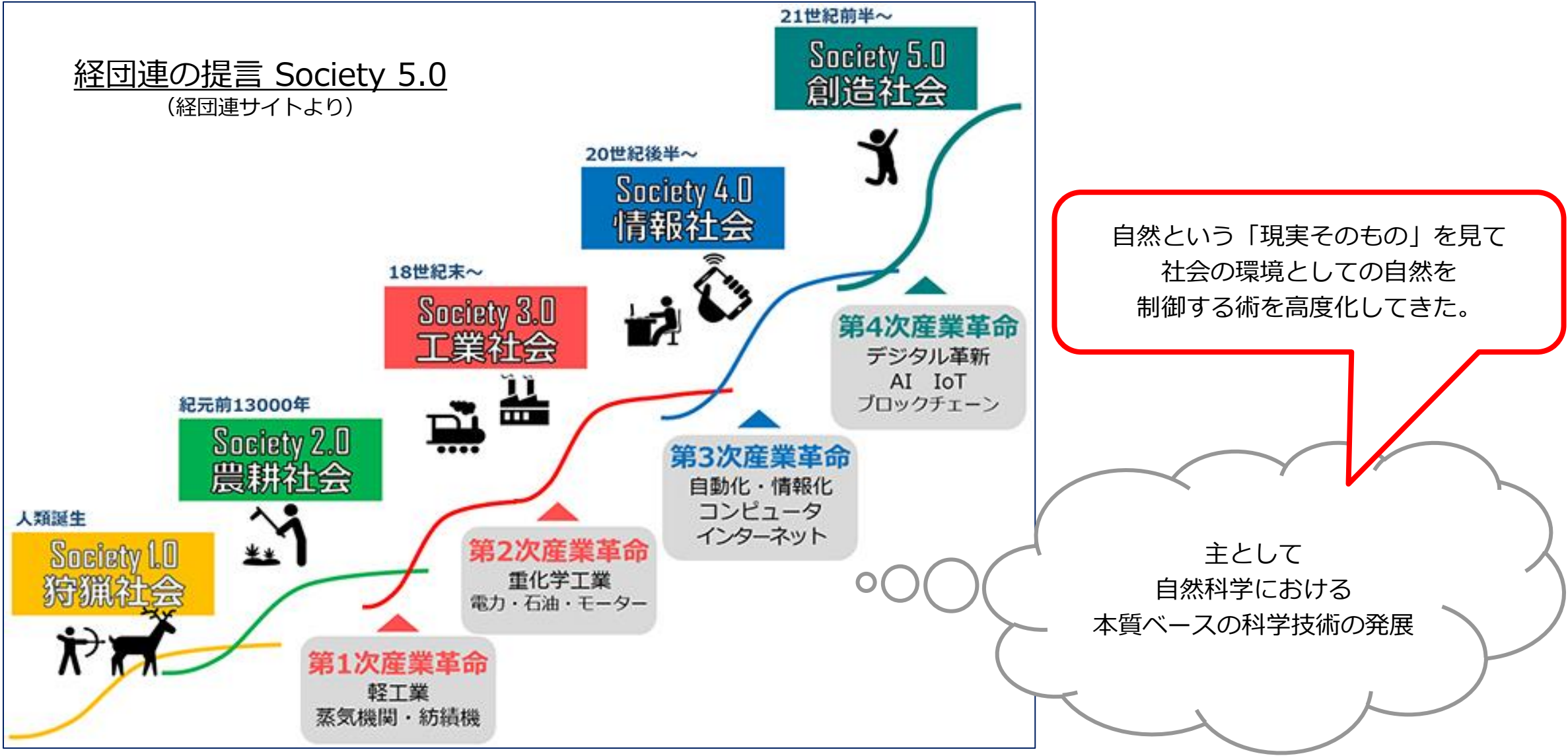
現代の自然科学では、「普遍的な本質」の概念はより**洗練され、限定的**になっていますが、基本的な探求姿勢は変わりません。

結論として、自然科学は、事物が持つ**一貫性、再現性、不変性**といった普遍的な特徴を「本質」と捉え、それを数式や理論で記述することに、その存在意義を見出してきました。

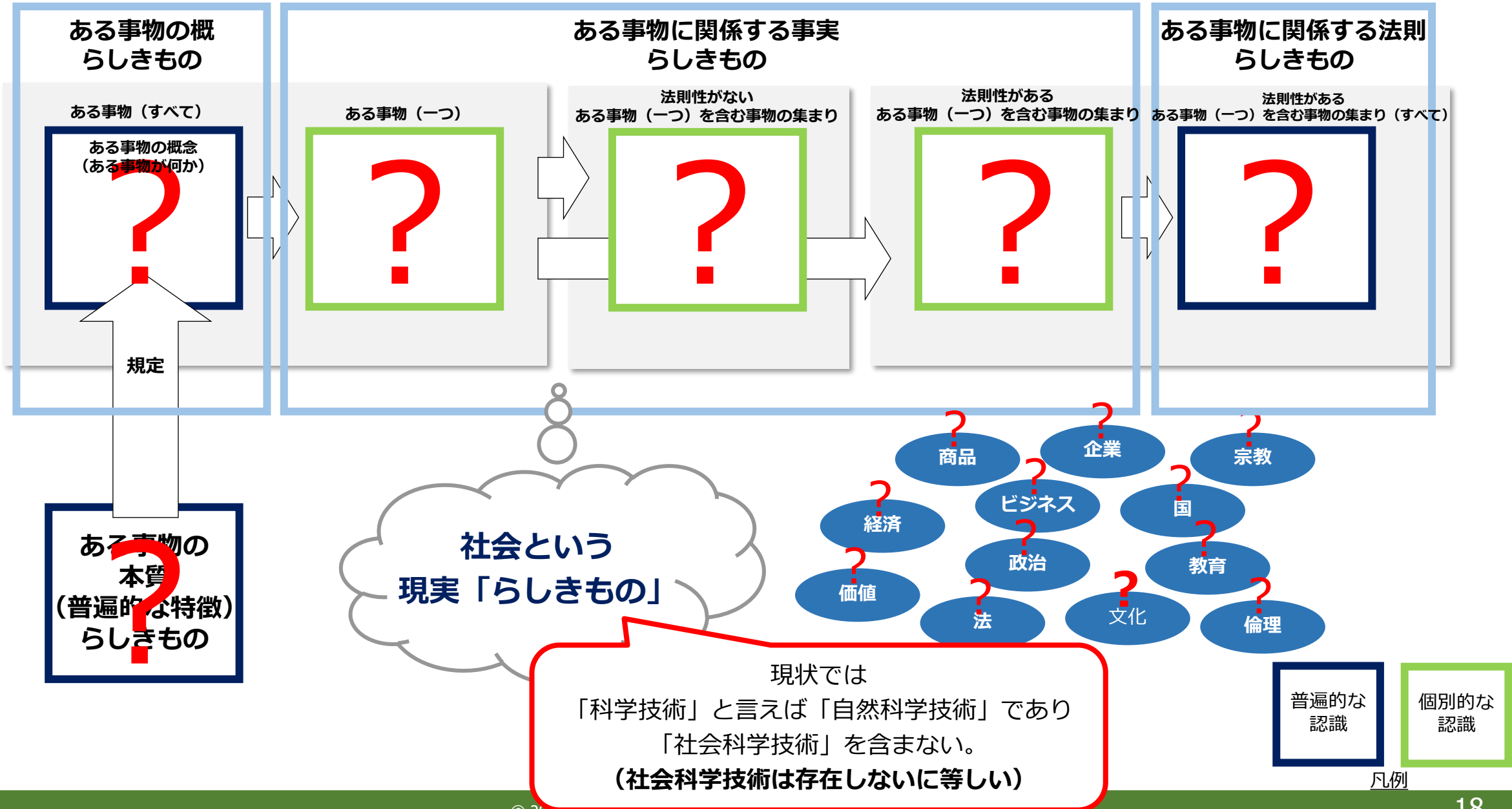
自然科学においては、自然の基礎的な事物の本質（事物の普遍的な特徴）が特定されてきたがゆえに、事物の本質を基盤として自然法則が発見され、自然法則の再現手法の体系である科学技術が発展してきた。



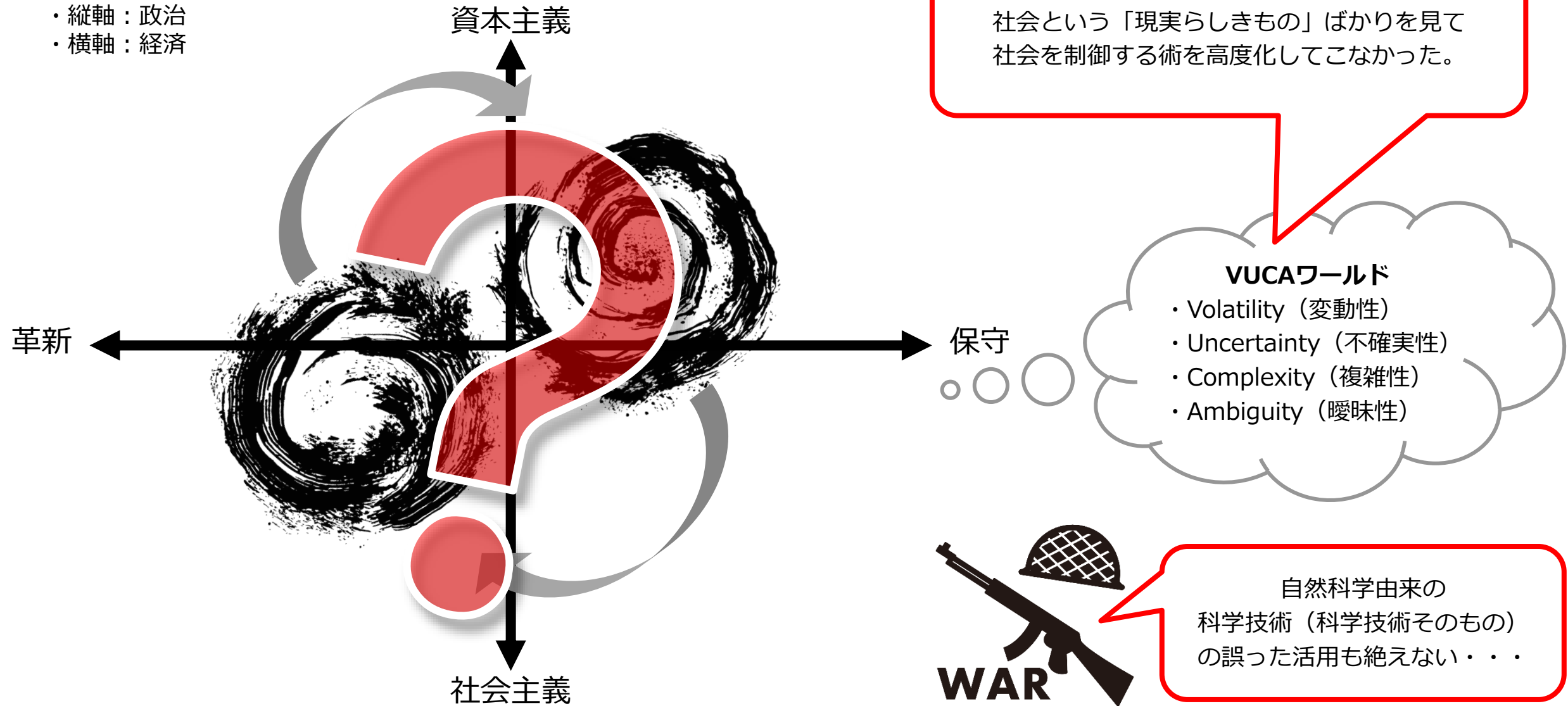
凡例



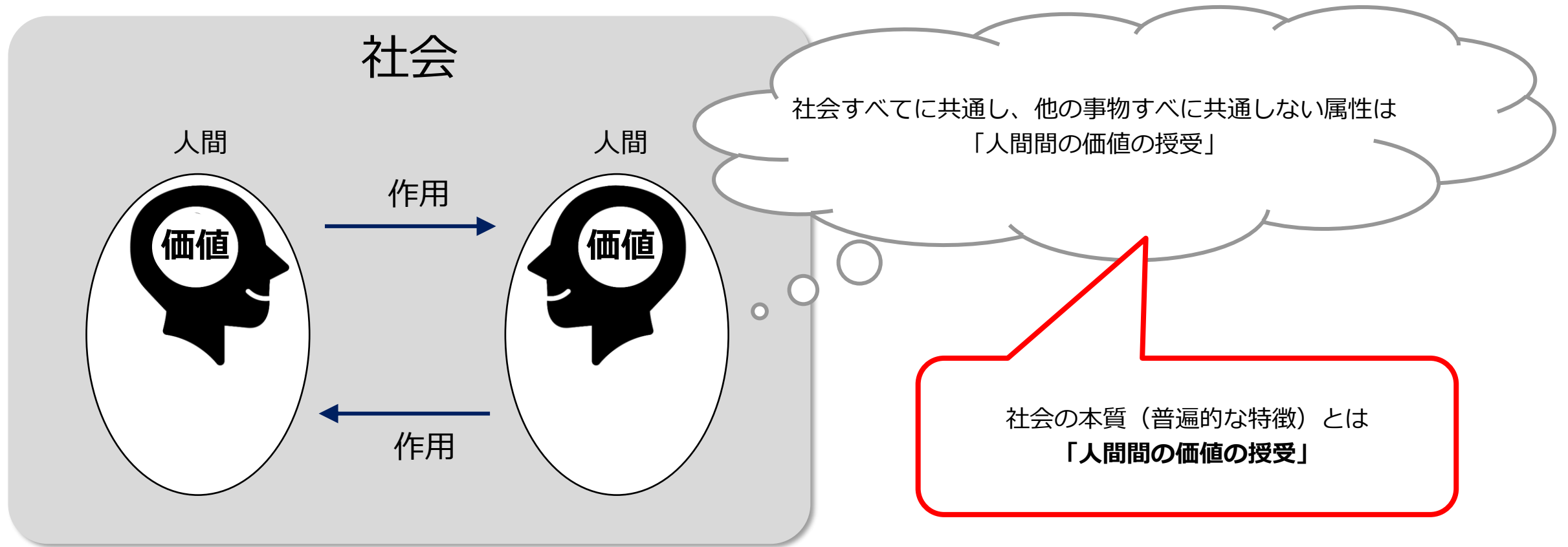
社会科学においては、社会の基礎的な事物の本質（事物の普遍的な特徴）が特定されてこなかったがゆえに、事物の本質を基盤として社会法則が発見されず、社会法則の再現手法の体系である科学技術が発展してこなかった。



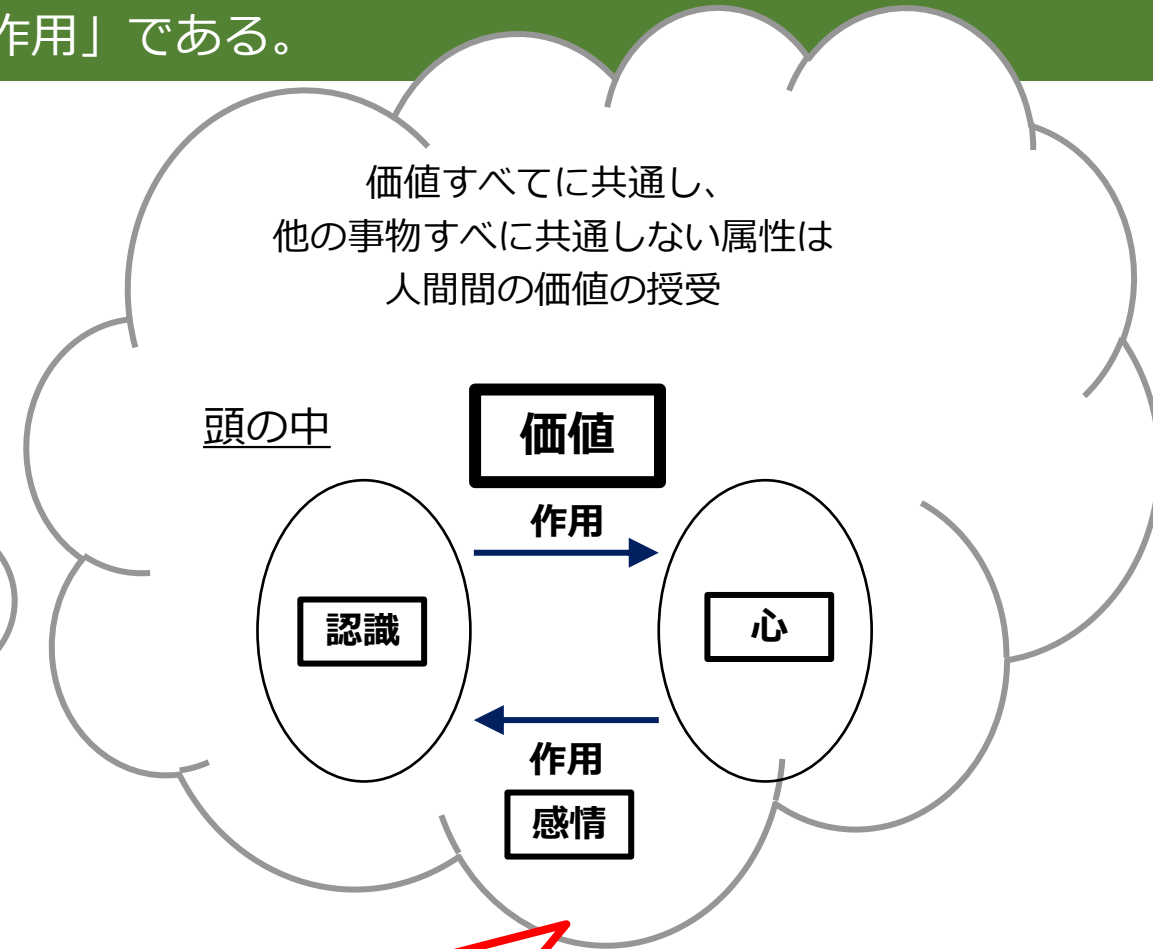
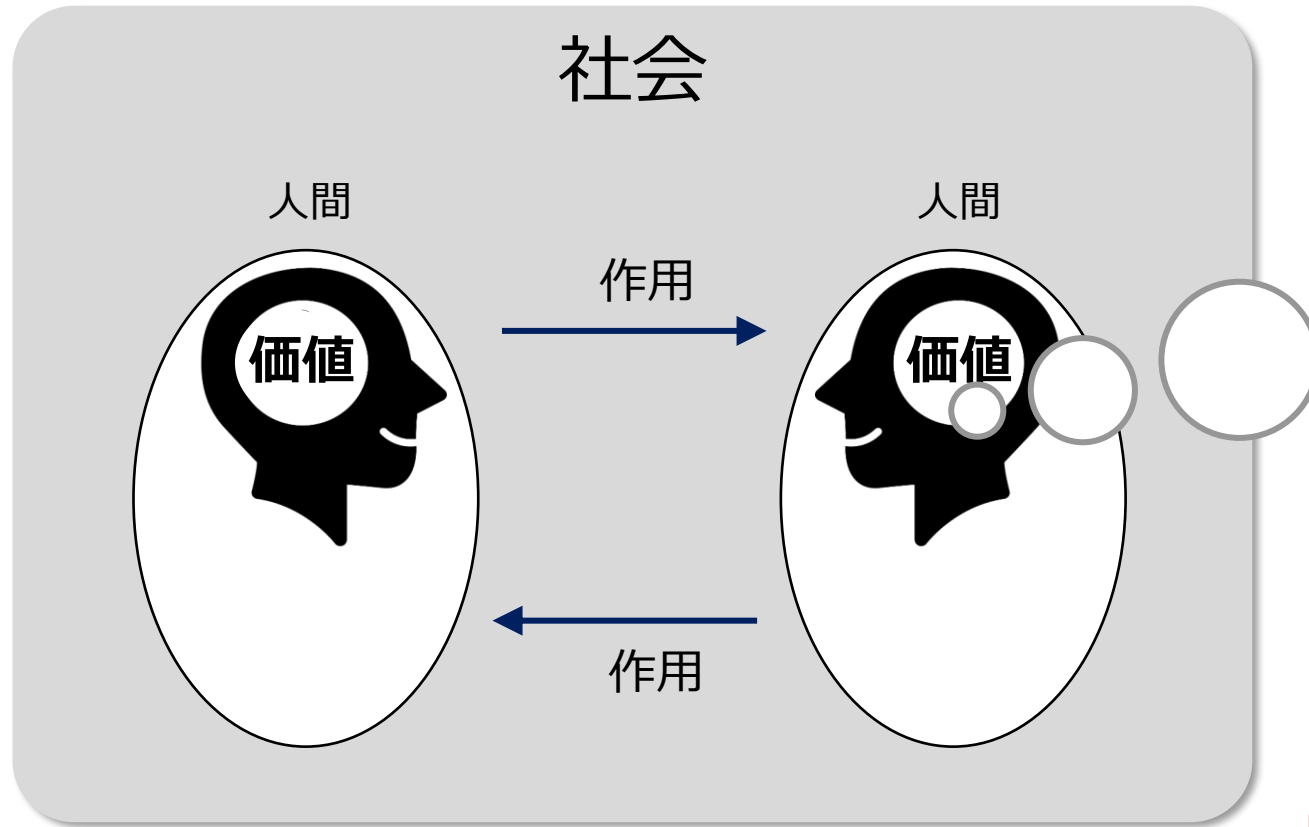
社会科学における本質らしきもののベースの科学技術らしきものは社会の発展に大きく貢献してきたとはいえない。



では、社会（人間社会）とは何か？
本質が規定する社会とは「価値の授受を行う人間の集団」である。

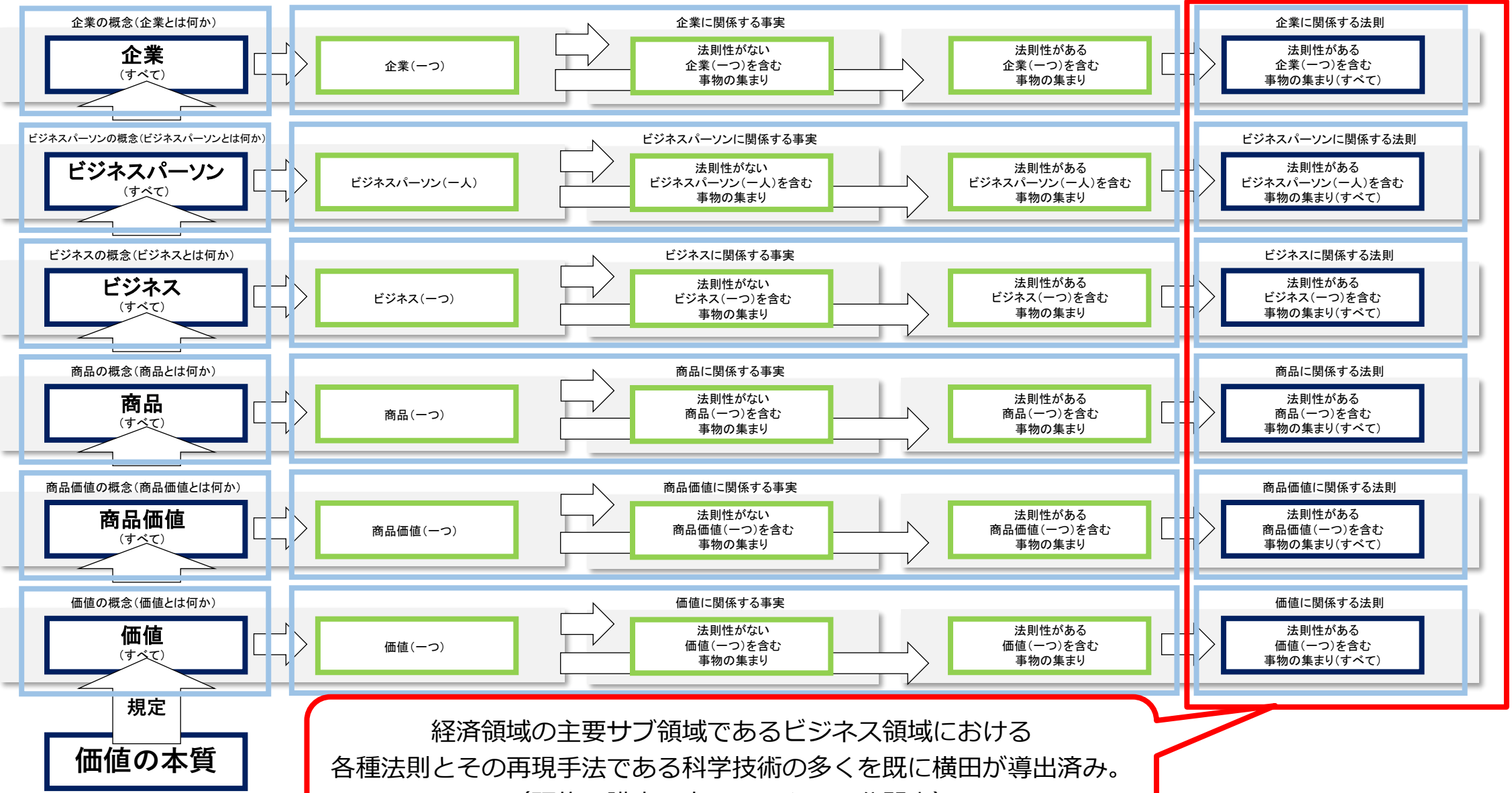


よって、社会の最も基礎的な事物は**価値**と**人間**の二つである。
そして、本質が規定する価値とは「感情を引き起こす認識の作用」である。

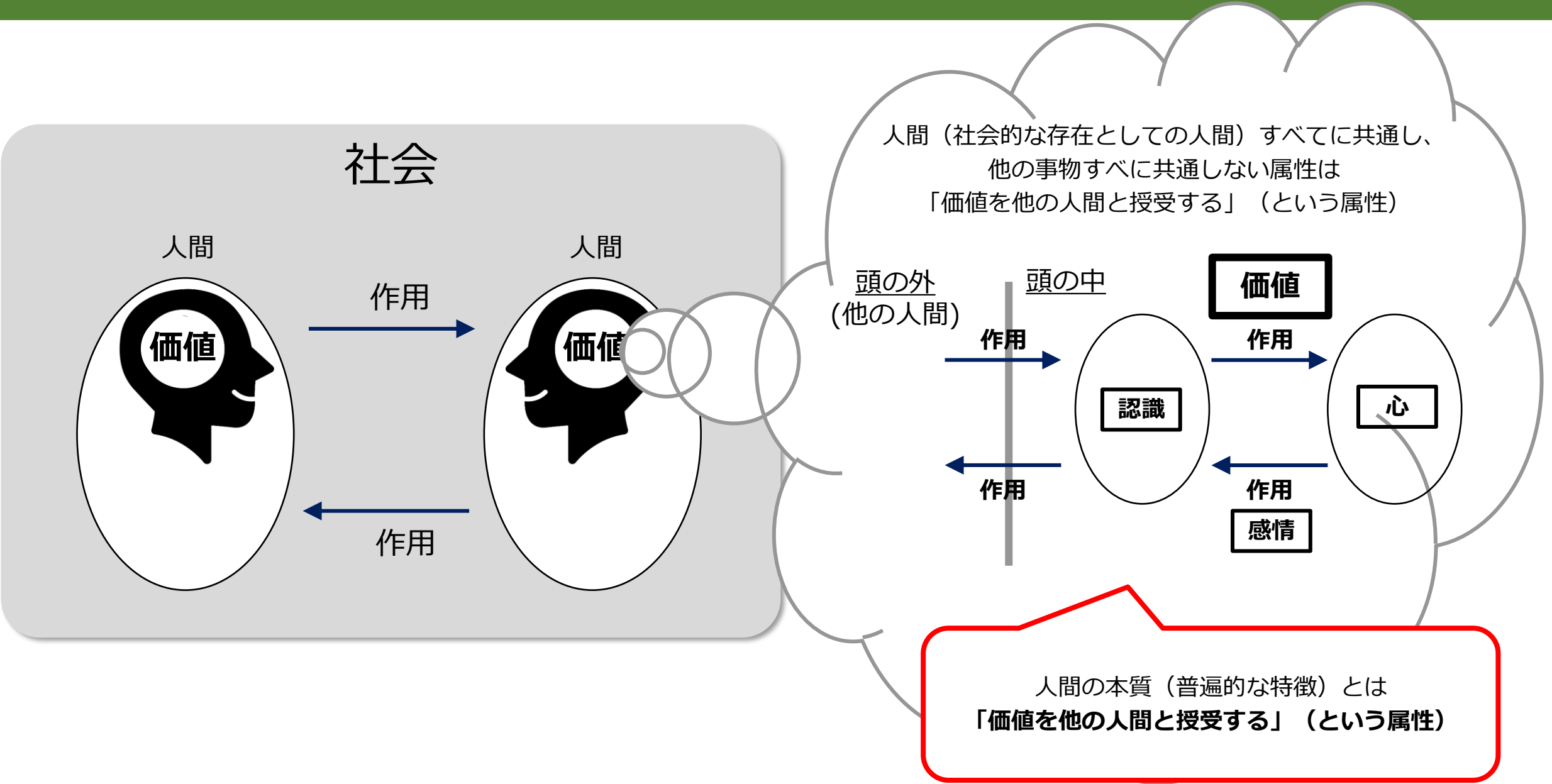


価値の本質（普遍的な特徴）とは
『「認識の作用である」と「感情を引き起こす」の組み合わせ』

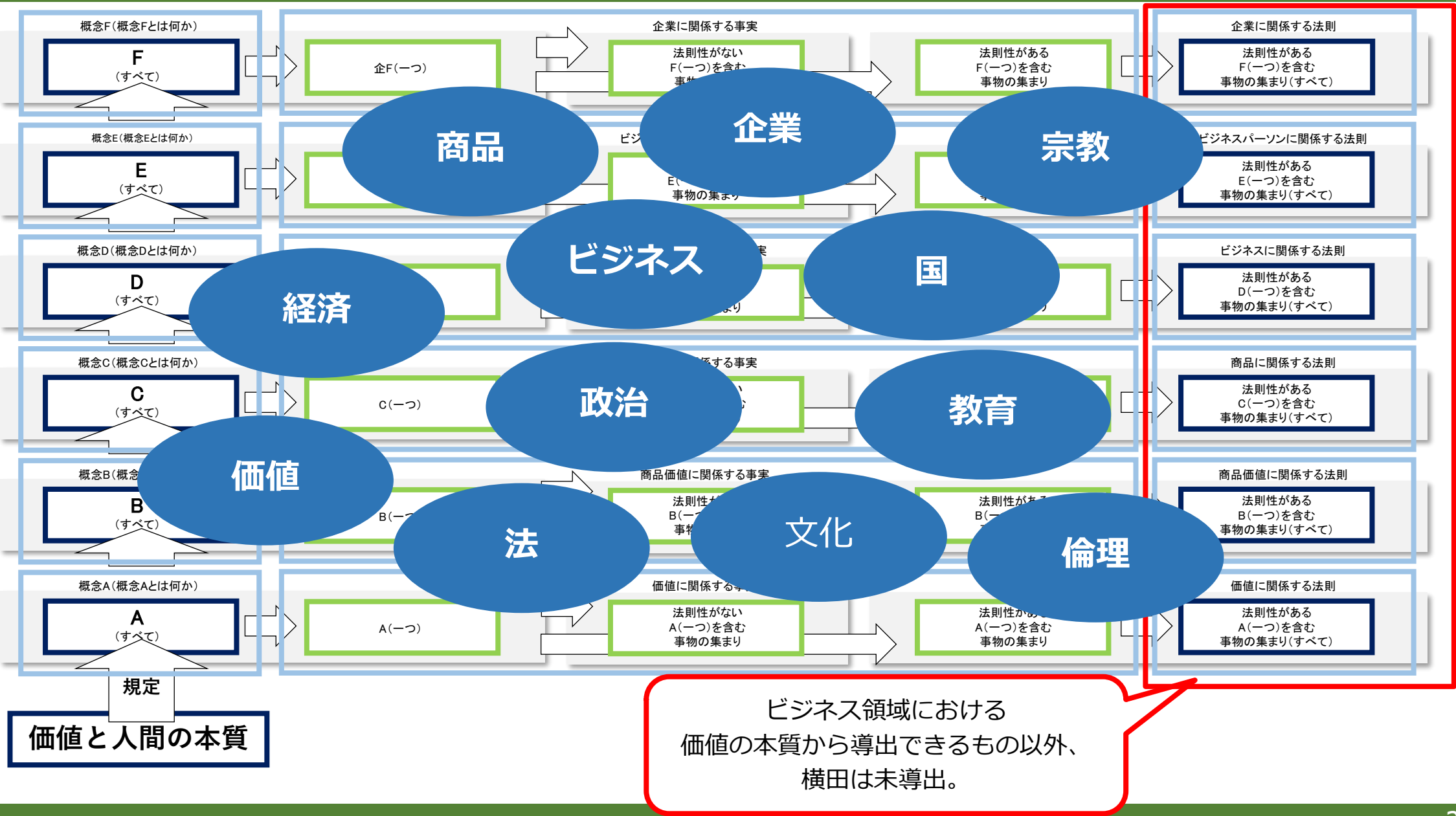
価値の本質ベースで社会の主要ドメインである経済領域の基礎的な事物の概念も普遍的に規定できる。
そこから経済領域における各種法則とその再現手法である科学技術が導出できる。



また、本質が規定する人間（社会的な存在としての人間）とは「価値を他の人間と授受するもの」である。



価値と人間の本质ベースで社会の基礎的な事物の概念も普遍的に規定できる。
そこから社会における各種法則とその再現手法である科学技術が導出できる。



ところが、社会科学では本質の探究を軽視する動きが強まっている。
これでは、社会科学は社会の発展に大きく貢献できないままになる・・・

AI（Google Gemini）での問答

科学を自然科学と社会科学に二大別するとして、これまで社会科学において事物の普遍的な特徴を本質と呼んできましたか？

◆ はい、これまで社会科学においても、事物の（人間や社会の）普遍的な特徴を「本質」と捉えて探求する認識は一般的でした。

特に社会科学が成立し発展してきた初期の段階では、自然科学の成功に倣い、**時間や文化を超えて当てはまる不変の法則や原理**を探求することが主要な目標とされました。

しかし、自然科学と異なり、社会科学の対象は**人間という解釈し、変化する存在**であり、**歴史や文化に依存する**社会現象です。

このため、社会科学では「普遍的な本質」の概念に対して、強い**批判や修正**が加えられてきました。

結論として、社会科学は初期には「普遍的な本質」を探求しましたが、現代ではその**限界や問題点**が広く認識され、**文脈的な理解や多様性の分析**に重きが置かれるようになっていきます。

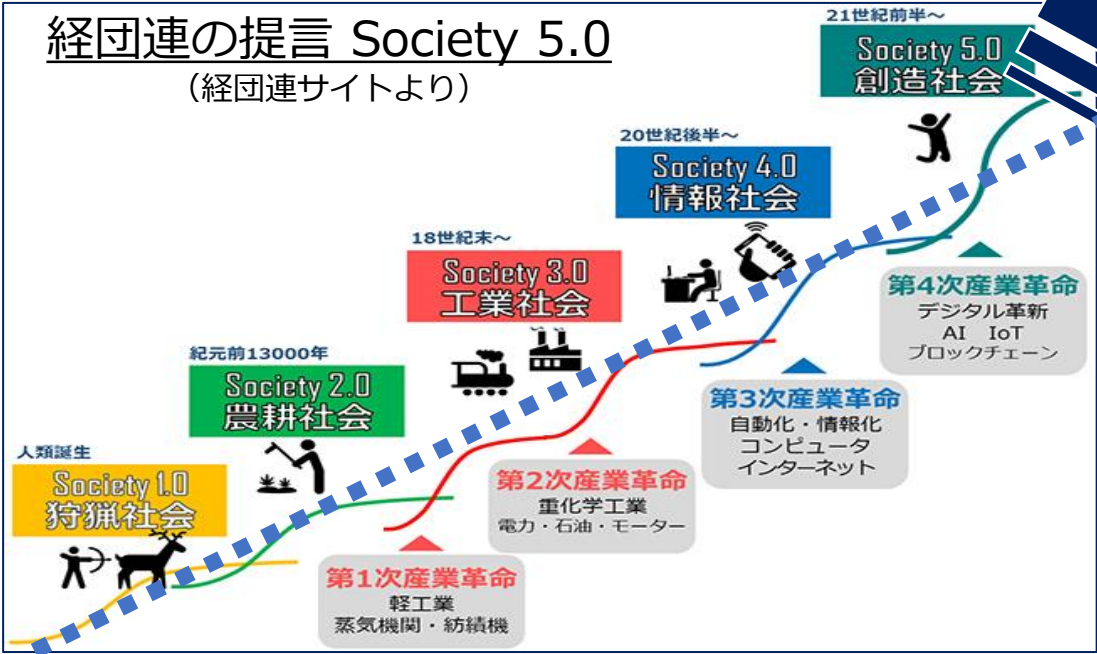
社会科学でも自然科学同様に飽くなき本質の探究を行い、
社会をより良いものにしていきましょう！

自然と社会という「現実そのもの」を見て
社会の環境としての自然と社会の両方を
制御する術を高度化していく！

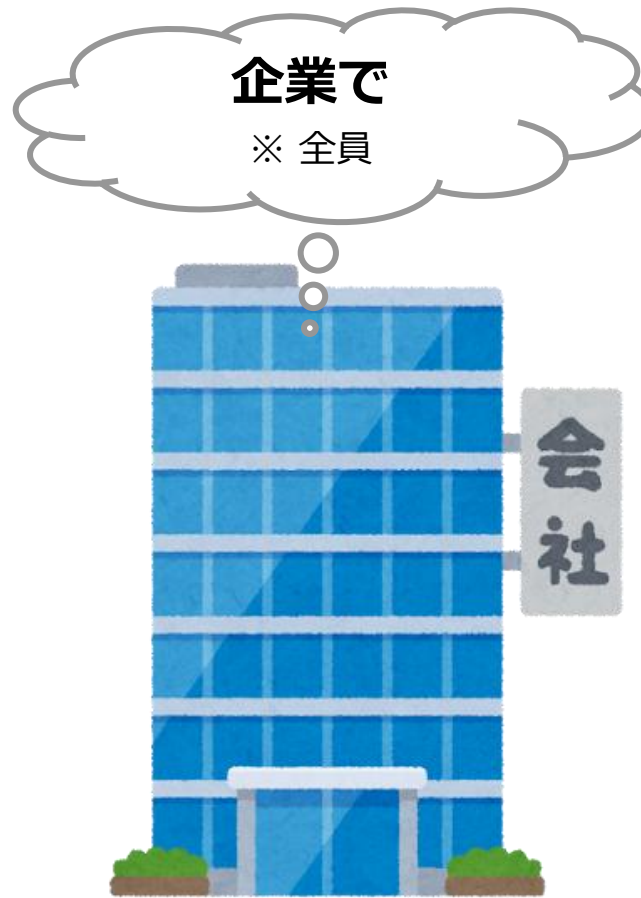
科学哲学が公共政策のみならず
官民にわたる社会経済政策の効果を
飛躍的に高める！

自然科学と社会科学の両方での
「本質ベース」の科学技術の発展

自然科学のみでの
「本質ベース」の科学技術の発展



そして、本質教育をすぐにでも本格化させましょう！



**本質、すなわち「事物の普遍的な特徴」は
「現実の正しい見方の根本」である。**

ご清聴ありがとうございました。

「出る杭の杜」サイト：
<https://www.derukui.company/>

本質ベースの研修

本質ベースの講座

本質ベースの本

本質ベースのコラム